

ぼくたちの微力が未来を変える

岡山中学校 1年 上野 太成

地球はぼくたちが生きる大切な場所です。しかし現在、地球は様々な課題を抱えています。その中で微力ではありますが、ぼくが取り組んでいることをいくつか紹介したいと思います。

ぼくは、小学生の時にSDGs（持続可能な開発目標）を学び、色々な取り組みをしてきました。例えば、ぼくたちが六年間使用したランドセルを途上国の子供たちに送る「ランドセルは海を越えて」というキャンペーンに参加しました。途上国の中でも特に物資が不足しているアフガニスタンの子供たちにランドセルや文房具などを寄付しました。これはぼくの通っていた小学校が毎年六年生を対象に行っている活動です。世界の教育格差が少しでもなくなればという思いでランドセルを磨き、使っていない文房具とともに送りました。

ぼくが日々の生活の中で取り組んでいることも紹介します。一つ目は六年生の時、家庭菜園にコンポスト（堆肥を作る容器）を設置し生ごみを家庭内で処理するようにしました。これは、夏休みの自由研究で家庭から出るごみの量を調べたときに、生ごみの量が四十パーセント近くも占めていたことから始めた取り組みです。家庭ごみを減らすことで、ごみを燃焼するときに出る二酸化炭素の量が減れば地球温暖化の課題に貢献できると考え、今でも続けています。

もう一つ、ぼくやぼくの家族が心掛けている日々の習慣を紹介します。それは、スーパーなどに買い物に行った時に、海洋資源保護の認

証マーク（MSC / ASC 認証）がついた魚や地元でとれた野菜を選ぶようにすることです。ぼくは、お寿司が好きで特にマグロが大好きです。しかし、太平洋クロマグロは絶滅危惧種に指定されています。このままでは、マグロが食べられなくなる未来が来るかもしれません。ですから、マグロがまた増えるまでの間、ぼくが出来ることは、食べる物の選び方を変えてみるということでした。また、外国や国内の遠い地域から運ばれてきた野菜を消費しなくても、地元には新鮮でおいしい野菜があります。地産地消をすることで運送にかかる燃料やそこから出る二酸化炭素の排出も抑えることが出来ると考え、この様な商品を積極的に買うようにしています。消費者の行動が変われば商品の流通の仕組みも変わり、未来も変わると思います。

このように、ぼくが地球にできることはとても微力なことではありますが、無力なことだとは思いません。むしろ、取り組みを継続して周りの人に伝え広めることで大きな力になると思います。ぼくたち一人ひとりが日々の生活を見直すことで未来を変えていく力となります。皆さんもぜひ、地球が抱える課題の解決のために出来ることから行動してみてください。